

通信

15.6.21

三令軍

軍令部
15.6.21
受接

軍務局

大正十五年六月十五日

第二課

采田 綿 昇 保 鎮 守 府 参 謀

坂野 海 軍 自 軍 務 局 第 二 課 長 殿

旅順港ニ於ケル支那東北海防艦隊ノ無線通信ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ茲テ軍務第一一二號ヲ以テ御照會有之候處最近

旅順海軍無線電信所長ト支那東北海軍海防艦隊長トノ間ニ別紙寫

ノ通協定覺書ヲ交換致候

右通報ス

追テ通信時間ニ關シテハ豫テ旅順無線電信所ト支那軍艦側ト協

定済ナルニ拘ラ^{中村}某一片ノ口約ニ過キサ^{中村}ルヲ以テ事變等ノ際ハ兎

③

15.6.18
軍務局
第二課

軍令部

0803

二三班

軍務第二

三二號

ノ一

再協定無視ノ傾向アリ今般覺書ヲ交換スルコトニ取計ヒタル
次第ニシテ支那側カ協定ヲ無視セサル限リ今ノ處地信實地上
大ナル支障無之申添候

（別紙添）

終

寫

5080

大正十五年五月五日

旅順海軍無線電信所長小倉眞二

東北海軍海防隊隊長凌霄殿

旅順港ニ於ケル無線通信ニ關スル約束

旅順港ニ於ケル實験隊海軍艦船ノ火花式及電弧式發信ハ左記ノ時
間ニノミ實施サレ度電球式ノ發信ハ波長ヲ協定サルルコトヲ發度
右御約束ス

左記

午前八時ヨリ	午前九時迄ノ一時間（日本西部標準時）
午後一時ヨリ	午後二時迄ノ一時間（同）

9080

午後八時ヨリ 午後九時迄ノ一時間（日本西部標準時）

旅順海軍無線電信所長 小倉眞二印

東北海軍海防監隊長 俊 齊印

海

軍

29

4080

軍令

第二果長

大正十五年三月十八日

軍務局第二課長

栗田 隆雄 参謀長

旅順無線電信所ニ関スル件

三月十八日發付濟

旅順無線電信所ハ同院在泊ノ奉天軍所屬ノ無線電信ノ式送信機、無節制ニ使用シテ屢次受信ヲ妨害セラル

ル趣先般同院出張ノ市来ハ司令部ニ謀リテ及莫大遺憾
我軍通信ノ妨害ニ支障ヲ来シタル現状ニ於テ是レ本報

告ガルニ據テ推定セラルル以テ知ノ通今ヨリ直ニ港則、改テ予
ニ依リ支那艦船、無線電信使用ヲ禁絶スルハ実行願ハ因

海軍

模造半葉十三行露紙

難ナルノシテ又却テ不利益ナル結果ヲ招来スル虞モ有之
 差也ヤリ一或同地ニ於テ通信時間ヲ短之ルモ亦出先ニテ
 解決セシムルヲトセスヤトモ思フセシ莫ニ付テ右御會ノ上表同
 司無線電信所恒例慣習ノ為同地以出先ノ考考ニ於テ
 亦事情出精考ノ上出通般お成度
 右照會ス

陸軍及同部ノ一ト同部ハ一ト可及速ニ外務省無任百得祝詞
 及同部等ノ長々長々長々無任百得祝詞ノ祝詞ノ新志ス
 右照會ス

陸

40

6080

無線本部

一部三課



第一装置
第二装置

八千二百「メートル」
五千五百「メートル」



軍令部
二班四課



左記

東京無線電信局檢見川送信所第一装置及第二装置ノ試験通信使用電波長ヲ左ノ通變更致候條御諒知相成度候

東京無線電信局檢見川送信所使用電波長ニ關スル件



軍務局

第二課

海軍省 軍務局長 殿

遞信省 電務局長

電業第一三一六號

大正十五年六月八日



0180

第一課長

海軍省圖書

模造半葉十三行對紙

軍令部
15.9.2
受接

東漢書

大正十五年八月三十日

海軍名録

大月州

牛后一萬五千磅

燈
15. 8. 30
本

電報(日)

[illegible]

記
長
二
五
米
十
元
五
角
分

第二班濟

卷四

官房機控負
九七番員科

海軍

副官

陸普第三八四九號

供覽

短波長使用ニ關スル件通牒

大正十五年九月十六日 陸軍次官 畑 英 太

海軍次官 大 角 岑 生 殿

七月十五日信第七三四號遞信次官照會首題ノ件ニ關シ別紙ノ通回答

置ケリ

軍務局

軍令部

總務部

第二課

官

第三課

西

部

15.9.17

部

陸軍省

15.9.17 受發

武總監 15.9.20

15.9.17

15.9.20

軍令部 15.9.20

官房

短波長使用ニ関スル件回答

大正十五年九月 日

陸軍次官

逕信次官宛

七月十五日信第七三四號照會首題ノ件左記
條件ノ下ニ要存ナシ

左記

一、軍隊携行用小電力無線機ニ在リテハ其ノ特質
上部外ノ無線通信ニ不利ナル影響ヲ與フル場
合甚々稀ナルノミナラス教育演習等ノ際ニ同
一種ノ無線機ヲ多數使用スル場合ニ運用上

數個ノ波長ヲ配當スル必要アルヲ以テ割當以
 外ノ波長ヲ使用スル場合アルヘキコト
 陸軍用無線ト混信スヘキ顧慮アル無線施
 設許可ノ際シテト本配當波長ノ範圍内
 ニ於テモ豫メ省有ニ協議セラルタキコト